

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

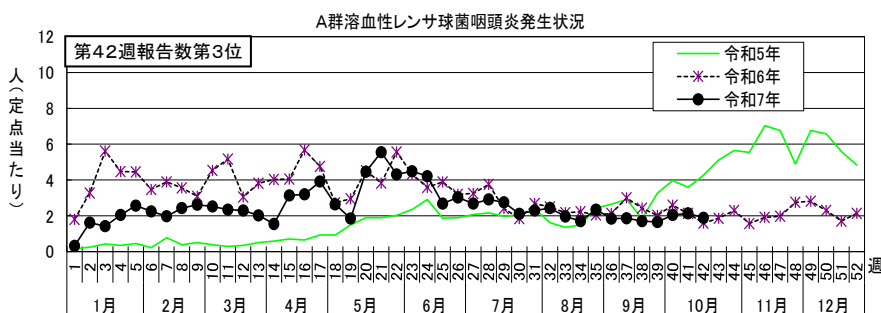
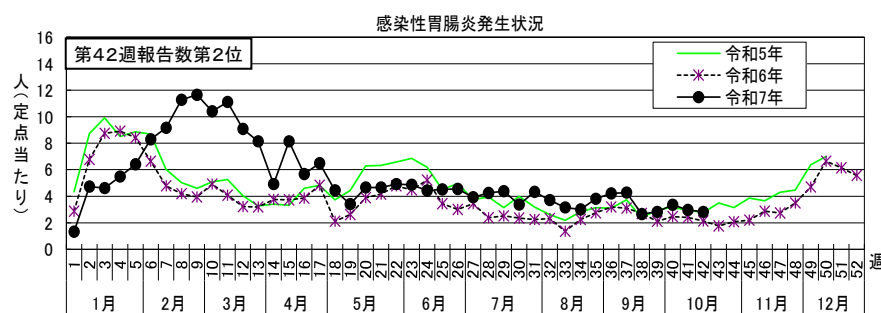
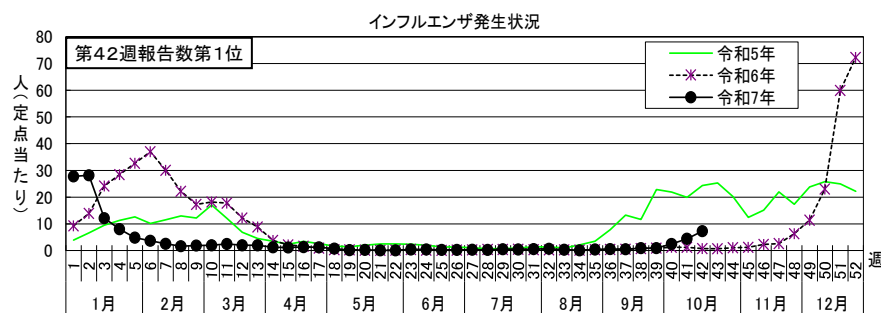
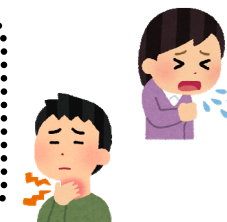
令和7年10月13日（月）～令和7年10月19日（日）〔令和7年第42週〕の感染症発生状況

第42週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）感染性胃腸炎 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

インフルエンザの定点当たり患者報告数は7.35人と前週（4.48人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.81人と前週（2.97人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.89人と前週（2.14人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



年長児の報告もみられます！～RSウイルス感染症～

川崎市におけるRSウイルス感染症の令和7年第42週（10月13日～19日）の定点当たり患者報告数は0.70人と、第37週（9月8日～14日）以降、例年より報告数の多い状況が続いています。近年は6～7月に流行のピークを迎えていましたが、今年は8月末から報告数の増加がみられています。また、通常は2歳以下の小児が報告の中心ですが、ここ数年は年長のお子さんの報告もみられています。

RSウイルスに感染した場合、多くは数日で軽快しますが、生後6か月以内の乳児や基礎疾患を有する小児は、肺炎等を起こし重症化することもあります。かぜ様症状が長引き、咳がひどい場合等は、医療機関に御相談ください。

RSウイルス感染症とは

【感染経路】

飛沫感染、接触感染

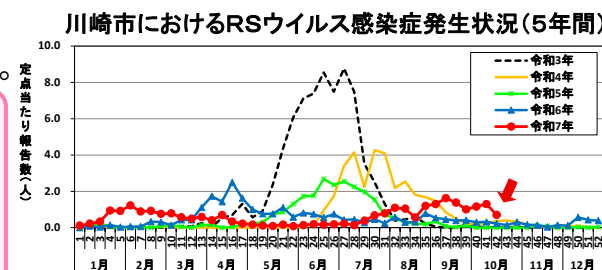
【潜伏期間】

2～8日（典型的には4～6日）

【症状】

発熱・咳・鼻汁等のかぜ様症状

*多くは軽症で済みますが、咳がひどくなり、喘鳴や呼吸困難などの症状が出現し、肺炎等を起こす小児もいます。



大人からの感染にも要注意！

令和7年4月7日から急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスが開始され、ARI患者の検体の病原体検査も行われています。RSウイルスは成人の検体からも検出されており、大人が小児の感染源となることも考えられます。かぜ様症状がある場合は、お子さんに感染させないように注意しましょう。